

とても恐い76年前の戦争

諷谷小学校六年

二組

上地

月乃

私たちの今の暮らしは平和ですが、76年前の戦争はとてもおそろしく、たくさんの人々が戦死していきました。その戦争が改めて私がおきてほしくないと心の底から思いました。千九百四十五年(昭和二十年)にアメリカ軍が上陸しました。そして、14さいから17さいくらい千七百八十人の男子生徒が少年兵にされていき、約半数が戦死してしまいました。また、女子

生徒は14さい以上が負傷兵の看護の代用として、たひめりり学徒隊や白梅学徒隊が組織され、陸軍病院などで活動していたそうです。

そして、私は苦しい戦争中の中、一体何を食べているのか疑問に思いました。それで、ネットで調べたら、食料不足の中、人々は、たんぼぼやよもぎ、つゆくさなどを食べていたそうです。

そして、私がびっくりしたのがあり、危険だとも思いますが、カエルやカタツムリなど生き物

を食べていたようです。今はあまり考えきれない食べ物なのに、生きるために食べていたので、改めて戦争中の人々はすごいなと思いました。

ほかには、私たちが住んでいる読谷村のチビチリがマで、集団自決が始まり、ガマでは84人が自決し、その半数が12さい以下の子どもでした。他のガマも集団自決が多かったです。最も多かったのがチビチリがマなのです。こうした、集団自決はそれほどにも苦しく、悲しかったと私は改めて恐ろしい戦争だと思いました。

そして、私が一番戦争の中すぎいと思ったのは、白旗の少女です。白旗の少女とは、比嘉富子さんという方が、ワサいのときの話しです。少女は姉たちとはぐれてしまい、それから少女は避難行を続けることになりました。そうして、少女は多くの自殺する兵隊や集団自決する住民など目にしながら、さ、まよいあるがマでは日本兵に殺されかけるときもあ

りました。ですが、とあるがマに入ったとき
とてもやさしい老夫婦に出会い、少女はここ
で身を休めることにしました。その外では、
どんどん戦争が激しくなっ。ていき、少女は一
緒に死にたいと言ったが、それに対して老
夫婦が命の大切さや生きのびることの価値を
説かされました。なので、老人が老婆を指示
し、自分のふんどしで白旗を作らせ、その旗
を少女に持たせました。少女はがマから逃げ、
他の住民と一緒になり、そこで2人の姉と再

会することかできました。
私の祖母は10リサイくらいでチビチリが
マで生活しが運良く生きることができました。
なので、私は祖母からたくさん話を聞き、ひ
いおじいちゃんが戦死したことが分かりまし
た。命の大切さなどを学んだので、マから
一生戦争が起きないでほしいと私はずっと思
い、これからは低学年にも戦争のことを教え
ていきたいです。